

## 建設産業おでかけ委員会会議録

平成 26 年 2 月 25 日 (火)

午後 2 時 00 分 開会

【小出義一委員長と竹内元章氏から挨拶の後、委員長より江口氏の紹介を行う】

○小出委員長

それでは早速議題に入りたいと思います。前回のご意見に対し、A4資料1月27日に挙げられた問題点に対する対応例に基づき説明をさせていただきます。地元のみなさんからいただきました課題、問題点に対し、こういうことがやっていけたらと委員会の中で話し合ってきたことです。副委員長から紹介します。

○岩田玲子副委員長

【資料に基づき説明】

○小出義一委員長

これに対し、参加いただいている方のお考えを伺ってまいりたいと思います。フリーにどの切り口からでもいいとなると話がまとまっていけないと思いますので、まず、街づくりを協議する場づくりについて基本的な考えを擦り合わせてまいりたいと思います。

○竹内元章氏

街づくりを協議する場づくりとして、ハード事業ではなくソフト事業も含めた対応例として挙げていただいています。今、話を聞かさせていただいて、今やっているような組織プラスもう少しやわらかいような組織ができればと思います。行政と議会は住民の意向をサポートすると書いていただいています。今回の建設産業委員会ですと、4月になると変わってってしまう。市の職員もどんどん時期が来れば異動がある。住民はずっとそこに住んでいる方で変わらない。やっぱり同じ意見をぶつけて、だいたいこういう風に進めたいと考えて意見を述べても、市の対応として申し送りをちゃんとしてもらえるのか、住民も責任を持って決まったことに対し、ルールを守ってやっていきますが、市の方としても責任もって受け継いでいってくれる確約。後はある程度市側でもずっと残っていってくれる方、や街づくり課を作ることはできないでしょうか。という意見です。単年ではなく、長い期間になると思うのでその間ずっと行政でも守をしてくれる人がほしいということです。

○小出義一委員長

委員の方からこれに対して考え方などお持ちの方がいましたら、発言をお願いします。

○中川健一委員

まったく同感です。議会のことは少し置いて、役所の方がどんどん変わって行って当初は思いを持ってやっても5年も経って、10年経つとがらっと考えが変わってしまいます。そこは建設部か市民経済部、または市長のプロジェクトチームということで、市長直属で横断的にやるケースもありますが、そういう所を作らせて対応する。一人か二人、兼任でも構いませんので、いれればいいと思います。半田市議会の方は議会での対応はなかなか難しいかもしれませんが、私は暫く建設産業委員会でがんばるつもりです。

○小出義一委員長

他の委員の方ありませんか。

## 【発言するものなし】

### ○竹内元章氏

今、せっかくプロジェクトチームではないかもしれませんが、市長直属のチームを作ったという話がありましたので、例えば全体的な部分はここの部でいいけれども、ハードでこういうものを作りたいよという時に、毎回チャンネルが切り替わっているとやりにくいので横断的な、若手の人と協働してやれるようなやわらかい組織にできればと思います。僕はどちらかという若手をもっと出て行って、こういう街にしたいです。先輩方どうですかといながら街づくりを考えていきたいと思っています。各課、部から一人ずつくらいは出ていただいて話をしていけたらと思います。重い会議ではなく、やわらかいソフトにプロジェクトチームを組んでいただけると本当に助かります。難しいかもしれませんが。

### ○榊原康仁市民経済部長

先ほど市の申し送りの話がありましたが、これは当たり前のことで必ずやります。で、後そういった地域の人たちと一緒に街を作っていく場合は、例えばハードは市街地整備課、商工観光課がソフト面で都市計画課が景観面で、それぞれの担当者がそこに入って一緒に考えていく、そんなような組織づくりが必要だと思っていますし、そんなことができればと思います。

### ○竹内元章氏

皆さんが情報共有していただけると非常に助かります。みんなで一緒にやっていきたいという気持ちがあります。資料には行政と住民が議会の意思をサポートするとありますので、ぜひ協力的にサポートしていただきますようお願いいたします。街づくり協議会いろいろやって見えたお立場から江口さん、今のイメージどんなものを作っていきたいかお考えがありましたらお願いします。

### ○江口米美氏

街はできてから20年くらいで変わってしまうんですね。マンションにしても、住宅が必要でそこに住む。一つの体系が20年から30年も経つと変わる要素がある。知多市に粕谷団地というのがあったのですが、日鉄の分譲ですが、そのころは小学校もいっぱいでしたが、20年後には子どもも大きくなってしまって学区の機能も弱くなってしまった状態。JUS半田でも20年になります、90世帯のうちの30世帯くらいは変わっていると思います。今、現状としては60歳以上の世帯が相当増えている状態もあると思います。我々が当初からやっていた計画というのは南区まで含めた話し合いをしてきましたが、縮小された結果、除外されました。今、何が一番いけないかという車も入っていけない状態。小さな敷地で建物も建てられない。また、今どのくらいの割合かはわかりませんがおそらく60パーセントか70パーセント以上が高齢の方たちが住んでいるところだと思います。後10年したらどういう状態になるのか考えながらいかないといけない。ここにも書いてあるように、若い人たちが住めないところで賑わいを取り戻すことが可能かどうか。あくまでも住民を増やしていくことを考えないとちょっと無理だと思う。中区自体220世帯くらいですかね。そのうちロイヤルとJUS半田を合わせて119世帯ほどあったと思います。約半分を2つのマンションで構成している小さな区ですから、やはり南区、中村区、北区、住民が住みやすい環境を

整えながらこの商店街を形成していく必要があると思います。観光客頼みでは今の時代果たしてどうか、素通りの観光客が多いのではないですか。まず住民を増やして、住民が必要とするような商店をやはりやっていかないといけないと思います。全体的な計画をやらなかったことには一部だけの計画では難しいのではという気がします。私としては住民を増やすことを進めてほしいというのが一番です。

○小出義一委員長

定住者を増やしていくということを地元で交流を作りながらという意味で街づくり協議会について話し合っていくということでしょうか。

○中川健一委員

ちょっとご質問をさせていただきたいと思いますが、定住者を増やす時に具体的に一番何をやるべきという風にお考えですか。

○江口米美氏

区画整理自体が縮小されていますので南区をなんとかして整備してほしい。

○中川健一委員

それを税金使ってやりなさいということですか。

○江口米美氏

区画整理云々ではないですが、このあたりを何らかの形で整備してほしい。

○中川健一委員

知多半田駅前は今区画整理されて道路なども広がっていますが、あれは成功とお考えなのか、失敗とお考えなのかちょっと知りたいのですが。

○江口米美氏

おそらく失敗でしょうね。

○中川健一委員

では、南区を区画整理しても同じことにしかならないと思いませんか。

○江口米美氏

そこを商業地域云々ありますが、住民を増やすような整理をやっていければと思う。現状駅前の一等地だと思っていますが、病院とか高齢者の施設ができていて、果たしてそこに賑わいがあるのか、ないのか。少しおかしいと思うんです。結局、迎えに行く、連れてきて、送っていく施設になっていて、まわりを歩いて散策するようになっていないのではないかと思います。建物だけは埋まっていくそういう気がしてしょうがないです。こちらでやるのだったら、人を住ませるような地域になるようにしていかないといけない。道筋をきちんとたててやっていかないとはいまうまくいわずに、知多半田駅前を同じようになってしまう可能性もあると思います。

○小出義一委員長

街づくりを協議する場づくりというところから、まずは定住者を増やすということへ話が来ていますが、そういったことも含めて協議をする場が必要だと思いますが、そういった観点でもう少し話ができたらと思います。

○杉木伸行氏

専門的なことはよくわかりませんが、ずっと見てきましたが正直に言いまして風通しもいいですし、道もきれいになりましたが、何か寂しいな。昔からの感覚がないなど。これは住人の意見です。昔からいる人がいなくなりました。街並みといっても街ではない。家がところどころ点在しているだけ。後はマンションという形になってしまった。そんな風にするのであれば、長い事業になりますし、始めてからかなりの月日が経って、結果ああいう風になっていますので、今から先定住者が住みたいと思えるような街にしていく必要がありますし、景観形成重点地区に指定するだとか観光的なことを中心でやっていくのか、両方とも兼ね備えた地域にしていくのは今の地区では難しいような気がしないでもないです。ただ20年30年経ったときに、本当に昔からあそこに住んでいた人が一人もいなくなってしまうと、外から入ってきた人、モノばかりで、人間的な地元のものが無くなってしまふのは寂しいと単純な意見ですが思います。

#### ○小出義一委員長

街づくり協議会でこんな場が必要なんです、というところですが、前回内田さんが名鉄の区画整理をするときに、もっと意見を言っていかなければいけなかった。それを最後まで通していかなければならなかった。と言って見えたことが、思い起こされるのですが、街づくり協議会を作って誰がどういう形でやっていくのかという所をもう少しはっきりしておかないと、行政の方がどういう形で関っていくのか、次につながらないと思います。

#### ○内田榮一氏

前回の区画整理の時に地元の方からなんでもいいから早くやってよという声があり、そうではなく地元の人がもっと勉強をしてこういう風にしてください、ああしてください、と言わないと行政の悪口ではなく、意見がないのなら行政の方針、コンサルタントの方針に安易に乗ってしまう。それだけは避けたいと思います。本当は我々が自主的に動いて組織を作ってこういう街にしてくれというのが、本来の姿だろうと思うのだろうけど、なかなか民間人にとって時間的余裕だとか、知恵もありませんので、ただ街を良くしようという気持ちは持っているはずですから、それをどう生かしていくか。場づくりというのは簡単にはできないと思います。中区、西区、南区にしろそういう風にある訳ですから、そういう所で話し合いができれば、手始めとしてはいいのではと思います。将来的にこういう街にするんだという大きい理念が欠如していると思います。それが見えていないと部分的にこれはこうしたらいい。あれはこうしたらいい。ということばかりだと、あっちはこうなりました。こっちはこうなりました。ということになって、くっつけたら変な街になってしまった。ということになりかねない。ただ単に街並みを揃えると言っても簡単にはいかななくて私権というものがありますので、それをどのくらい制約して、こうしなければならないという合意が得られるかは、地元の住民の意向に関する訳ですし、地元の人意識がそこまで高まるのかと思います。全体像はなんとか見えないことには物も言えない訳です。知多半田駅前には区画整理と再開発の両方をやった訳ですけれどもむしろ区画整理は後からきて、再開発をするんだということになれば、街は全く変わると思います。区画整理は、道は良くなるけれども人も住まない、商店も来ない、そういうことになりかねない。現実には江口さんがダメだといいましたがその通りだと思います。これからどんどん家が建ったり、商店が来たりするかもしれませんが、

少なくとも僕らが考えているような概念の商店街はできないと断言してもいいと思います。そのあたりがなかなか難しく、我々ももっと勉強しなければならないと思いますし、先生方もこういう協議する場が頻繁にあってもいいと思うし、もちろん行政ともいろんな話し合いができればと思います。何にしろ我々が本当は立ち上がらなければならないと思っていますが。

#### ○小出義一委員長

一番上の枠に行政と議会は住民の意向をサポートすると書かせていただいています。この中身について住民の方がどうって見えるのかな、と知りたかった部分でもあります。今、内田さんがおっしゃってくださったことで、本来は地元が考えるべきことなんだということを確認に言っていて、安堵しているところです。では、これに対して今現状として本来ならば街づくりの理念を作って自主的に物が言える環境にあるのか、ないのか。ないとしたら、どうしていかなければいけないのか。そういった点についてはどうでしょうか。

#### ○内田榮一氏

住民、我々が街づくりに対して、どれだけの深い意識を持っていけるかその為にはどういう手段がいいのか。諮りかねます。ことある毎にこんな風ではいけないからなんとかしようね、というぐらいのことから始まって、そういう同調者が増えて一つの組織のようなものができれば、その中でいろんな話し合いができて、行政や議会とも話し合いができるのではと思います。行政や市議会がいろいろな案を示されても、我々に意識がなかった場合、いいですよ。と終わってしまっただけで、しまった。ということになりかねません。だから我々はもっと勉強して意識を高めたい、私はそう思います。

#### ○竹内元章氏

実際中区の平均年齢はかなり高くなってきていると思います。例えば若いもので言うと、商店街ですと一番若手が42歳。住民の方でも小さいお子さんのいるファミリーの方もいますが、新しく越してきた方は地域の行事に参加してくれなくて、徐々に増えてきていますがお祭りの参加率もまだまだ低いのかなと思います。先ほどの組織をつくってリーダーシップをとるといのは若い者がやらなければならないと思います。その後ろ盾に先輩方がいてどんどん助言をしてくれて、これでいいんだぞ。ちょっと違うぞ。と言ってあげれば、なおやりやすくなると思います。今実際に住民の人で若い人が入ってきているのかと言えば、目に見えては全く増えていないと思います。ですからここ数年、自分たちがまだ、若手だといっているうちにやっていかないとなんともならないと思います。前回1月27日に話を持ってきてもらって、それまで高架を伴う街づくり協議会ではどうしてもハードのことを話し合う場だと思っています。ソフト的なことを言っても何となく道路をどうするか、建物はこんな風、という話が進んでいました。住民がそこで住む、ソフト面は協議されていませんでした。それに対して、今後街づくりの話がある中で、自分も住民である商店主として、使命だとも思いました。また、時間があつたので、PTAのお母さんたちと話を聞いてみたら、ぜひやってほしい。そういう街づくりが進めば子どもたちが、安心・安全な街にしたいと言っていました。また、ここからちょっと離れたところに住んでいる方でも本当はこの地区に住みたいという話もでました。旦那さんの通勤に関してや、子どもの遊べる場などの話がでました。

半田小学校区、広いと半田中学校区になりますが、そういう広域での意見を吸い上げる形、ただ、あんまり広域になりますと、いろんな意見が出すぎてしまいますので、最初はこのJR半田駅前コンパクトにやって、先ほど江口さんが言われました南区の古い住宅地等についても話せる組織。そして徐々に大きくなればいいと思います。自分の理念としてあまり大きい組織を作っても枯れてしまうと思います。幹だけしっかりつけ、いいことやれば、そこから枝葉が延びてきて大きな組織になれると思います。もし自分がやれと言われればやりませぬ。中心になってやりたいと思います。自分のライフワークとして、ここに住む人間としてここで商売を営ましてもらっている人間としてやりたいと思います。もちろん商売人ではありますが、住民として進めたいと思いますので、ぜひ協力してほしいと思います。後は行政とプロジェクトチームを作ってそれを議会のみなさんに条例化してもらおうとか、いい施策はないか考えていくなどそういう絵が描ければと思います。なかなか、住人から言っても叶わないことが、市議会議員さんたち揉んでもらって、こういう形で条例化しよう、予算をつけよう、としてもらえたらと思います。特に若手の方と話すときぜひやってみてくれという意見が多いです。ぜひ先輩方の応援をいただいてやっていきたいと思います。

○内田榮一氏

リーダーがやるとおっしゃったなら、先頭に立ってやってくださいよ。あんまりむずかしく考えずに一杯飲みながら街づくりの話をしようやということから始める。わいわい言っているうちに仲間が増えてくる。それくらいの気持ちでやらないと難しいと思うよ。形ばかり作ってしまうと。

○江口米美氏

この商店街の活性化。もう何回やったか。3回か4回やったのではないか。さすがにコンサルなどから立派な指針をいただくのですが、そこから何が進んだかと言えば、何も進んでいないですね。補助金を受けながらやっておっても、その時に本だけではいかんぞ、といいながらも、さあやれるのかと言えば今、元君が言われた現実、ここの商店街高齢化してしまって一つのことを進めていく余裕があるかないかと考える。とは言っても、ことを進めていかないと現状のままではとても。私もここへ来て40年なんです。学生のころなので、50年前くらいになるのでしょうか。中町の賑わい、知多半田、こんなすごいところがあるんだと。6時7時になればネオンがちらほら。この当時、自宅から5分から10分で何もかもあった。極端に言えばキャバレー、パチンコ、映画館もあった。そんな便利なところが今は何もなくなってしまった。そのあたりをどういう風にクリアしていくかだと思います。観光客にしても、素通りだけでなく、ほんの1時間でも滞在するような何かがあればと思う。よくここは名鉄ハイキング、JRハイキングの通り道になるが、みごとぐらい素通り。歩いているだけ。そんな状態が一番でているのではないか。賑わいがあるのはそこだけでなく、周りもあって、滞在できる観光を目指していかないと、単なる店に入って終わりではだめだと思う。

○小出義一委員長

賑わいづくりは、また集中的に話したいと思います。まず、街づくりの主体として地元の方がリーダーシップをとっていかねばならないというところが、議会の方でも心配をしていたところでありました。リーダーシップをとってやっていきたいという声と、今までや

ってきた方のフォローをしていくよという声があり、委員のみなさんいかがでしょうか。この点不安要素でもあったかと思いますが、確認しておきたいことがあればお願いします。

○榊原伸行委員

私は今、竹内さんがリーダーシップをとっていただけるという発言がいただけたこと。これが第一の難関だと思っておりましたので、これをクリアできれば当初の目的はできたのではと思います。今、江口さんの言われたアイデアとか、経験もこれからみなさんで地権者、住民、というのは住民要望には行政の壁がありますので、その壁を我々議会が手助けできればと思いますのでその辺で第1歩が進めたかなと思いますので、これから大変なご苦労されると思いますが、ぜひ進めていただきたいと思います。

○小出義一委員

議会としては確認をしておきたかったところがございますので、地元が主体的にやっていくことに対してどう、行政がサポートできるかというところもあります。その場面場面にならないと具体的にはどういうサポートをするのかでてこないと思いますが、基本的には確認が取れたと思います。街づくりの協議会については、そのあたりでよろしいでしょうか。賑わいづくりは、ボリュームがあるところですので、その後の空き店舗対策や土地こと、建物のことについて具体的に書いてありますが、前回のご要望に対し、協議をしてきたことですが、商店を誘致するにしてみせないにしても、こういった状況が整理されていないと、先へ進まないということですが、いかがでしょうか。

○竹内元章氏

今実際に空き店舗対策ということで商店街の中でも商工会議所さんや市役所でもやっていますが、それを強化していくということでよろしいですか。

○小出義一委員長

行政がやらなければならない部分において少し踏み込んでおかないと今までと同じことになってしまいますので、本来的にどうなのかという部分はあるかもしれませんが、情報を集約してそれをまた提供しながら前に進めていく中で、行政が一定の役割を果たすべきという観点からまとめてみました。

○竹内元章氏

ルールづくりというのは大事になると思います。出店者に対し、どういう補助を行うか、どういう条件であれば補助をすることができるのか、ということもそうです。例えば空き店舗対策の3番目の○ですが、通いの商店主ではなく、定住をする商店主に対し補助を行う、というものと、補助率を上げるなども考えていくなどルール作りも、仮称プロジェクトチームで考えていければと思います。

○榊原市民経済部長

補助を打つ意味というのは補助が無くても出てくるのに、というものではダメだと思いません。この補助があるから、だったらやろうかなという動機づけになる補助にならないと、補助する意味がないと思います。みなさんをお願いしないのは、これくらいの補助がなければ動機づけにならないよ、と言っていたきたい。ここまでやらなければだめだ、というのを言っていたきたい。行政の判定の中で、なかなかそういう金額が通らない。例えば、住民

や商店街の意見、なおかつ議会からの提言もあれば、根拠となる。そういう部分を住民の意見を聞いて、説得材料としたい。

○竹内元章氏

今の補助金制度も3月で終わりますよね。それ以降にもすぐに例えば反映できるようになるのか、1年くらいかかるのか。住民の意見はどれくらいで反映されるのか。

○小野田商工観光課長

空き地空き店舗対策事業は3月までとなりますが、新しくリニューアルした制度を設けます。大きな特徴としては2つあり、1つは中心市街地だけではない、乙川亀崎などの駅前商店も対象とします。もう1つは、今店舗をやって見える方が、リニューアルすることを対象とはしていなかったが、そういう人も対象にするという案です。現段階で出店者の実態を見ると、外から来て店をやっている方が多く、なかなか住むという形を限定していませんが、新しくやる人、現在やっている人の両方を支援する制度への組み替えを予定しており、議会へ提案させていただく予定です。運用をしていく中で細かな条件面でこうした方がいい、というお話があれば制度を変えていくことはあり得る話ですので、ご意見ください。

○竹内元章氏

余分な話ですみません。だいたいいつからの算段ですか。

○小野田商工観光課長

行政の制度設計ですと、1年から1年半くらいを見据えてやっています。

○小出義一委員長

ここにいくつか対策があり、住民要望がまとまればという前提がでておまして、そういった意味でも地元の協議会や組織がある程度具体的に形成されて、そこで情報としてまとまってくることも前提かと思います。先ほど主体はどこに、どういう形で作っていくのかということをしていきながら、要望もあげていただけるといいのかなと思います。そういった意味でも協議会作りがベースになるのかなと思います。ここまでのところで委員のみなさんご意見あれば伺いたいと思います。

○新美保博委員

こないだの話と今日の話は随分違うところに話が来ている感覚があります。そもそもこの委員会は何を求めてこういうことをやっていたのか、見えなくなっているのが正直なところでは。賑わいを取り戻そうねとか、活力のある街を取り戻したい。それは半田市全体で取り戻したいが、とりあえずとってはなんだが、JR半田駅前がチャンスかなと、例えば名鉄半田駅前でも今やっても無理だけど、JR高架もあり、区画整理もある意味でチャンスではないかというところで、この地域に絞り、賑わいや活性化を求めてはどうかというところで始まりました。ありがたいことに、竹内さんにリーダーとしてやっていきたいという意気込みをいただきました。僕としては会はどちらでもいいと思っています。誰が何をやっても会を作らなければやれない話ではない。あまりこだわって欲しくない。だったら何をすると賑わいができるのか。これをやったらどうだろう、というのはやはり理念だと思います。どういう街にしたいのか、というのをここで話していかないと、空き店舗対策だとか、こんなことは手立ての一つです。この対応としてまとめたものは、先回の意見を羅列したものであり、



これをどうする、これをどうするという事です。これをどうするか決める前に、街をどのようにするかを決めないと、どんどん話が細かくなってきりが無い。観光客の街なのか、住む人の街なのかどういった街なのか、みんなで意見を合わせながら、こんなことで答えが出せるのか思いつかないけれどやっぱりある程度妥協できるアドバルーンみたいなものがあるのではないのかなと思います。これを作る為にこれから会を設けた方がいいと思います。

○江口米美氏

協議会などをやっていくうえで、ある程度こういう街にしていきたいという理念のようなものが必要。またそれだけでなく、どういう風にしていけば街が賑わって、人が住んで幸せな街になるかということを考えていきながら、やらないといけない。補助金制度がいいのか悪いのかわからない。タウンマネジメントや商工会議所など周りから与えられたものをこなしていきただけになってしまっていて、企画をしていくことが薄れているように思う。

○竹内元章氏

みなさんが言うのもわかります。でも若手を骨抜きにしてしまう。僕らが無茶をしようとするときに、あれは止めておけ、これは止めておけ、と言われてしまう。だからこそ僕は若いうちにやりたい。ただ新美さんが言われたようにここで話しても決まらないことなんです。ただ、これを今言われるのではなく、今日出ているからこの話になっているだけで、私たちの理念というのはこういう固い会議では厳しいと思います。申し訳ないですが、もっと小さな草の根から始めて立ち上げていくのが理念の始まりだと思います。やると言ったら私は責任を取ります。祭りもPTAもそうやってきました。最初は一杯飲みながらとか、ちょっとずつちょっとずつ始まると思います。そういう所から幹ができてくると思います。ここで協議論をしていても全然決まらないと思います。

○新美保博委員

どういう街づくりを若い人たちはしたいのか。ただ毎回飲んでいただけでは決まらないと思う。

○沢田清委員

時間を掛ければ掛けるほど無駄な時間が多くなると新美委員は言われたけれども、建設産業委員会が描いてきた絵がそこにあります。では、そこに辿りついたけれども本当にこれを進めるのにどうしたらいいのかを考えた場合に、今回のこういった場を設けないとことが始まらないということになって、始まりました。今までの街づくり協議会がどうであったか僕は全然知らないのですが、僕は、そこはいいと思います。今から結果を残すのにどうしてやっていかなければならないのか前向きな会がこの会で、その方向性について少しギャップがあることを心配していて、新美さんをフォローするわけではありませんが、僕らは委員長にお任せしていますが。先ほど竹内さんが、僕がリーダーシップをとって最後までやります。と言ったことについて、これで進むんだなど。皆さんが聞きたかったことだし、そう言うことが聞きたくて始まったと言っても過言ではない。だけど進めていくに当たっては酒の席での話し合いが必要ならば、その席を設けていただければ結構ですし、その方向性がここの中である程度決められるとみなさんがせつかくの時間を割いてここにきている訳ですから。これを意見交換するだけでは、と感じました。みなさんが思っている絵がどんなものなのかそれを

聞ければと思います。あの絵を描いて住む人が集まるのか、あれでは来ないだろうとなれば、来るにはどうしたらいいのか。ベースはこれでいいのかということ具体的に話していけたらと僕は思います。JR半田駅に降りたときに昔の江口さんが先ほど言われたような名鉄の駅、ネオンが輝き、アーケードがあって、人が行き交う。例えばスターバックスが来れば賑わいはでるだろう。だけどそれは違うよね。といった意見交換がしたい。

○竹内元章氏

僕もさっきわっと言ってしまって申し訳ないですが、ようやく、いろんな意見が出てきたと思います。さっきまでのこの会は堅かったんです。

○中川健一委員

結局は今日の進め方の問題だと思います。ここで議論すべきことは、この街づくりの勉強会を具体的にどうやって進めていくのか。先ほどの飲み屋でやるなら飲み屋でやるのか。

○竹内元章氏

飲み屋というのは冗談ですよ。

○中川健一委員

それはそれで僕はいいと思いますよ。その中に我々議員は入るのか、入らないのか。市の職員は入るのか、入らないのか。地元の人たちはどれくらいのメンバーを入れて議論をするのか。だいたいいつごろまでにと期日を定めるだとか、そういうことをみんなで揉んでいくという方向でやろう、という議論を進めた方がいいのではないかなど。理念のことは当然大切でただ、いくつか選択肢は分かっていることではないかなと思います。区画整理をやるのか、現状のまま行くのか、景観重視の街づくりをするのか、あとあるとしても1つ2つだと思います。それはみんなで考えて勉強会などを開いていけばと思います。だからここでもう少し議論すべきことは最初の協議する場づくりを具体的にどういう風につくるのかをここできちっと決めておかないといけないと思います。なぜ我々がここまで乗り込んできているかということ、今まで市と地元でやってきたやり方ではなかなか難しいなという思いがあって、我々市民代表としてここで転換していかないといけないという思いの中で、自分たちのアイデアも多少、成田議員が描いた絵がありますが、題材にしなから接着剂的な役割を果たしながらやっていきたいと思っています。

○岩田玲子副委員長

補足ですが、議会としても正式にバックアップしていくには、やはり正式な会議として、ちゃんとした組織であることが必要だと思います。

○竹内元章氏

もちろん居酒屋というのはとっかりの部分であって、きちんとした組織、会議は必要だと思います。

○新美保博委員

この委員会が立ち上がったのは、余計なお世話なのかも知れないが、このままではこの半田の街はよくないのでは、という少なくとも議員の立場で言っても半田市の街がこれではいけない、というところから、然らばどうする、ということです。最初この会を設けるまでは僕らはちゃんとした案しか持っていなかった。要するに賑わいがある、活性化が生むには、景観

を整備して、補助金額を増やして、絵のような街並みにすれば人がたくさん来るのではないか、わかりやすいように絵を描いてきた。そして、この会をやって、定住者を増やす必要があるとか、出店する際の問題だとかすごく具体的にでてきたから、これは景観整備して、塀の色を変えたくらいではどうにもならないことなんだと僕は思いました。

○竹内元章氏

その通りだと思います。例えばプロジェクトチームのようなものから発足して、ある程度まとまってきたら正式な会議としていく、というのも一つだと思います。

○新美保博委員

地元の皆さんのなかでプロジェクトを作って提案するのもあるだろうし、議会も入ってしまってみんなで提案していくのもあるだろうし。いろんな作り方がある。ただ、スピード感が無いと思う。もう少しスピード感を持たないと。やる、やらないということスピード感を持つのではなく、どういうことをやるかということにスピード感を持たないと、いずれは区画整理などもある。その時にそれはダメだ、とかちょっと待って。ということにはならないから、その為に地元として何をしなければならぬのかを協議して、相手に対して物申すためのこと。地元の人はいくつかの街にしてくれるなら区画整理をやってくださいと言える。地元の人が気に入った街にならないといけない。

○沢田清委員

それが前に内田さんが言って見えた、知多半田駅前の区画整理の時に僕たちがもっと意見を言っていればああいう風にならなかったよね、ということにつながると思います。

○小出義一委員長

それは先ほど言っていた今この中で話しあってまとめてきた街づくり協議会ということだったのだけれども、果たして今街づくり協議会という名前だけで具体的に進んでいるものがあるのか、とか作った中身が進んでいくのならこれでいいけれども、それが立ち上がって動いていくまでの暫くはサポートしていかなければいけないのかなとも含めて、今どういう風に動いて取り組んでいかなければいけないのかまとめていかなければいけない話だと思います。

○内田榮一氏

今、この会で本当にどういうことをしていきたいのか、というのが実は私はよくわかっていないんです。ですから、全体像や理念などいろいろありましたけれども何も具体的に区画整理はこうなるんだというところが何もたたき台一つ出てきていないから、我々としては物の言い方が難しい訳です。あの狭い道路をこういう風にして、などがわかる仮の図面が出ておればそれに対して、我々の意見を言ったり、困りごとがあればどんどん早めに出していく。スピード感というのはその辺のたたき台もない所で夢のようなことを言ってもほとんど実現できないですから。そのあたりはどうでしょう。

○大松市街地整備課長

J R 半田駅前で検討している区画整理の概ねの素案は持っています。協議会や勉強会で、道路の考え方などをみなさんと話し合ってきた訳で、案としてはありますが、あくまでハードでの内容ですので、今ここで話している総合的なものも含めた案にはなっていない。

○内田榮一氏

例え、ハードだけでもわかっていれば、ハードもわからなければソフトの方もどのようにしていけばいいのかわからないものですから。それを示していただいて、こういう風に変更して、こういう店を、飲み屋はこのあたりにという話し合いができるかもしれません。そういうものが無いと先に進めない。スピード感を持ってやってという話がありましたが。知多半田駅前には30年もかかってもまだ始末がついていない。そういうことが無いように、特に若い人に頑張ってもらって、早くしないと僕達死んでしまうよと言われてしまう。

○中川健一委員

僕の理解ですが、知多半田駅前には全面的に区画整理をやったんですけれども、JR半田駅前の今の縮小した場所というのは半田信用金庫の前くらいまでで、体制にはほとんど影響のない狭いエリアでしかやらないようになっていきますので、そこをどうのこうのということを考えずに自分たちが住んでいる街をどうすべきかということを考えていただいて、それに合わせて半田市が国から補助金をもらってやれるのであればやればどいいと思います。その方が主体的にやれるのではと思います。現状では体制に影響がないと思います。

○沢田清委員

どこからやればいいのか、というのを考えるにはみなさんが思う絵に近づけていくことだと思います。

○小出義一委員長

そのベースになるのが街づくりの理念だと言って見えて、街づくり理念は商店街だけで作るのではなくて、定住者を増やすという考え方の中で、住民と商店街も一緒になって、協議する場があって、揉んで作り上げていく。それに基づいた絵を描いていく。そういう意味での協議会があればと思う。リーダーシップはとりますよということでしたけれども、どういう構成でそういう理念を話し合って実際に街を作っていくという計画を立てるのかという所はこれからですから。何が必要なのか。そういうことも一緒に進めながらやっていかなければいけないのかなというの、今現在だと思います。先ほどの空き家対策などは補足ですから。

○中川健一委員

とりあえずこれくらいの考えはありますよ、という意味です。

○岩田玲子委員

議会、行政とも情報を共有しながらちょっとずつやっていく。

○竹内元章氏

以前のJR半田駅高架、名鉄知多半田駅区画の勉強会で一番つらかったのはコンサルタントの話。1時間半くらい、ブロック積んでとか、確かに勉強にはなりましたが、なんとなくあっちから言われたことをこなしているようになっていた。主体性がありませんでした。だからオンステージの人間が主体的になってことを運んでいくのが一番やらなければならないことだと思います。後はその行政にそれを聞いてもらって具体化していってもらおう。

○内田榮一氏

区画整理に時間がかかるから高架の範囲だけにしたというのはそれはそれでいいと思

ます。ただJRが高架されたときに中途半端な街だと思われてしまっては困る訳で、全体像を、将来こうなるということを考えて、とりあえずここをという話でなければ乗れませんよね。全体をこうしたいというのがあって、ここを先にやりますよという風に区別して、ではそこを急いでやりましょうと。スムーズになれば街が変わって、また考え方が変わるかもしれないけれどもとりあえず全体像が見えないとついていけないなと思います。

○小出義一委員長

一応10年くらいかかると言われていますので、今から準備をしていかないと高架がされたときにこのあたりをどうしていかないといけないのかを考えてプラスしていかないとけない。

○中川健一委員

僕はJR高架をすることと駅前の区画整理をすることは市長が勝手に行政決定して都市計画決定してやることなので。これは国が補助金を出すことを決めなければ今までやってきた9年間のように先延ばしでずっと先延ばしになってしまうものであまり宛てにしてもJR半田駅前の街がおかしなことになってしまう。結局は地域のみなさんが自分たちの街を知多半田の街と違ってクラシックな古い街にしたいならばそういう方向で意思を統一して、そこをみなさんで考えていただいて自立的にやれるところからやっていただく。市がJR高架をやるならばそれは、別としてどうぞ、というつもりでやっていけばいいと思う。自立して自主的にやっていくことが大切だと思います。

○内田榮一氏

再開発にしろ、区画整理にしろ、駅前を重点的にまずやられる訳ですけれども、どこまで意見をいっても同じ駅前だなと思います。そういうことならあまりおもしろくないなと。ここは蔵のまちでもあるし、古い民家もいっぱい残っている。残さなければならぬ、という所もたくさんある。そういうところが活かされるような街づくりというのをやってほしいなと思います。名鉄駅前の方は比較的新しい街となった訳ですから、こちらは今までの資産を活かして、ミツカンさんが復元をされるとまたすばらしい街になると思いますので。観光客が素通りをするような街ではいけないですから、そこでどうやったら滞留してもらえかも一生懸命考えていきたいですね。そういう街になるというPRをして、こういう魅力的な街ですよ、ぜひ出店をしてくださいとお店を引っ張ってこないとだめです。それを考えたときに、観光したついでにあの店にいて、コーヒー飲もうかな、ランチがおいしいよという地元のものがつくる珍しいものがあるよ。そういうものが出てこないとなかなか人が回ってくれないと思います。そのためには商売ですから、我々が言ってもなかなか進められない。そういうあたりをしっかりとやれたらと思います。

○京才泰直氏

今お話をずっと賜り、住民を増やすということと、西区の区長さんもおっしゃっていましたが、歴史的財産を使って賑わいを創出という2つのことを一緒に議論していくことは難しいと思います。まちづくり協議会などで進めていくには当然この2つのテーマに必要なメンバーを揃えてそれぞれ問題点を拾って、ピックアップしてやっていくことからスタートと思います。それがでてきて、それから皆さんの気持ちの前へという形からいかないと、なか

なか前へは進まないと思いますので。先ほどどういうタイムスケジュールでやっていくのか、かなり早めに動きそうなので相当時間は短く考えないと間に合わないだろうなど。まずはメンバー構成をどうするかというところで、特に住民の方を中心にしっかり支えていただける方をピックアップしていくことが大事だと思います。

○小出義一委員長

街づくり協議会ということで具体的なご意見だったと思います。ただ、メンバーですね。どういう展開になっていくのかなということは私にもわかりませんが、一緒にやっていけたらと思います。今季建設産業委員会としてはどうやっていくかという中で申し送りもしていきたいと思います。

○竹内元章氏

メンバーの話がありましたけれども、あくまで任意の会なのでやわらかい部分、例えばお母さんたちにも入ってもらって、子育てとかお店の話が聞けたらと思います。あと、市役所の中からもピックアップして核になるメンバーを作って、みんなに聞きながら夏ごろまでに決めていけたらと思います。

○小出義一委員長

我々どうサポートしていけるかということもあると思います。他にありませんか。

○中川健一委員

任意の団体をお考えということですが、僕は公的な位置づけが必要だと思います。内輪ではフラットな部分があってもいいと思いますが、地域の合意のとれた公的機関など、後で勝手にやったと言われても困りますので。心配事です。

○竹内元章氏

みなさんからこういう心配事をいただけるのはありがたいことですので、とりあえずは責任をもらされた以上は頑張ってやります。ただ、メンバーとかどういう形でやるかということについてはある程度できたらみなさんに承認してもらいたいと思います。スピード感をもっていきたいと思います。大きいことを言ってしまいましたが、先輩方の協力は必要です。今日は最後の方はみなさんでわあわあ言えて笑顔が出てきましたので前回より進歩かなと思います。思ったことを話せる、でも背筋を伸ばして参加できる会にしたいと思います。

○小出義一委員長

時間も迫ってまいりました。当初描いていたことと少し違う所にきているのかなと思いますが、議会としても一番心配していた、地元がどう考えていて、主体的にどう動いてくれるのであろうか、という点については、前へ進んでいくことができたのかなと思います。引き続き見守って、お助けできる部分については力になって少しでも進んでいけるようにしていきたいと思います。委員会としてはこのご意見いただいたことを取りまとめて具体的に当局に対して提言し、バックアップしてまいりたいと思います。ありがとうございます。

これでおでかけ委員会を終了します。

閉会 午後3時47分